

まんなか

「にいみ子育てカレッジ」オープン!

「にいみ子育てカレッジ」運営委員長・事務局長

幼児教育学科 教授 片山啓子



平成二十年四月六日、本学キャンパス内に新設された新見市学術交流センターの中に、地域の子育て支援拠点を目指した「にいみ子育てカレッジ」を開設しました。金曜・土曜の週二回開いている、就学前の親子が訪れて安心して遊べるスペース（交流広場）には三名の専任保育士も常駐し、土曜日には学生も参加して、毎回、平均四十人の親子や家族連れで賑わっています。子育てカレッジではこの他にも、子育て支援者に対する専門研修・専門的な子育て相談・子育て情報発信など六つの事業に取り組んでいます。

この子育てカレッジは岡山県備前市民局が提唱・推進し、本学幼児教育学科、新見市、民間の子育て支援に関わる諸団体が応じて、その事業内容や運営方法などについて協議の上、大学内に地域ぐるみで立ち上げた組織・施設の第一号として注目されています。これから岡山県内はもとより全国の子育て支援の充実に向けて、「にいみ子育てカレッジ」を子育て支援の新見モデルとして発信していきます。

発刊 新見公立短期大学（岡山県新見市西方二六三の二）

〇八六七七七一〇六三四

編集 学報編集委員会

第十回鳴滝祭 開催される

鳴滝祭実行委員長 藤江あゆみ

五月十・十一日の二日間にわたり、第十回鳴滝祭が開催されました。今年も、「おかげさまで十周年！感謝感激GATSIO SH WCHI」というテーマでした。子どもからお年寄りの方まで楽しんでいただけるように、さまざまなイベントを考えました。一日目は残念ながら雨が降ってしまいましたが、二日目にはすっきりと晴れ、青空の下で鳴滝祭を開催することができました。

一日目は、新見ウインドアンサンブル、クラス対抗、トーナメントなどが雨に負けないように、学生会館のステージを盛り上げてくれました。二日目は、豪華景品をかけたビンゴ大会などが行われ、多くの方に楽しんでいただけました。そして、一番の目玉である吉本興業お笑いライブでは、「たむらけんじ」「パッドボーイズ」「たかだコーポレーション」を迎え、大反響を得ました。そして、二日間にわたり ミスター&ミス新短 を決めるミスコンやカラオケ、学友会・各学科・部活動による模擬店や展示、チャリティーバザーも素晴らしい賑わいを見せました。

今回の鳴滝祭を行うにあたって、地域の方々、教職員の方々、講演会の皆様、他大学の方々など、多くの

方のご支援・ご協力をいただきました。また、実行委員のみんな、毎日遅くまで残ったの準備、ご苦労さまでした。頼りない私を最後まで支えてくれて本当に感謝しています。たくさんさんのトラブルはありませんでしたが、みんなの協力のおかげで無事に鳴滝祭を終えることができました。本当にありがとうございます。来年、第十一回の鳴滝祭の成功を願っています。



「認知症と明るく生きる」 講演会を終えて

講演会実行委員 三浦 大輝

五月二十四日に行われた「認知症と明るく生きる」講演会では、予想をはるかに上回る、たくさんの方々が会場に足を運んでくださいました。会場が途中で変更になるなど、ご迷惑をおかけすることもありますが、たくさんの方々の支えもあり、無事終了することができました。

私たち実行委員会は、昨年から少しずつ活動を行ってきました。学生主体ということで、大変な面は多々ありましたが、支え合って頑張ってきたことができました。地域の方々のためにすることがしたい、認知症のことを少しでも多くの方々に知っていただきたいという強い思いがあったから頑張ることができました。これを機に、地域の方々とかかわりをもっと増やし、たくさんの方々の活動を地域福祉学科のみんなので取り組んでいきたいと思えます。



学友会執行部より

学友会会長 岡 本 歩 惟

皆さん、こんにちは。私たち学友会執行部は、二年生十五名、一年生十五名の計三十名の役員で活動しています。

私たちは、学生交流会・スポーツ大会・球技大会・クリスマス会などの行事の企画・運営を中心に、鳴滝祭での実行委員会のサポートや年二回ある定例総会の運営を行っています。

四月十二日に、新入生を迎えて学生交流会を行いました。同じ科の友達はもちろん、科を越えた交流ができるよう、グループ分けは三学科混合です。レクリエーションやカレー作りを通して、まだ慣れていない短大生活の緊張を少しでもほぐすことができればと思います。計画しました。皆さんの笑顔を見て、楽しんでもらえたようなので嬉しいですね。

五月十二日にはスポーツ祭がありました。二日間の鳴滝祭の翌日という過密スケジュールの中、たくさんの方々に参加していただき、大いに盛り上がりました。各チームや科による団結が色濃く見えたスポーツ祭でした。

今後の行事としては、十二月に球技大会・クリスマス会を予定しています。私たち学友会一同、力をあわせて頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。



地域看護学専攻科

今年も十六名の学生を迎えました。



小見山幸乃
私は、岡山県の五年一貫の学校を卒業したあと、本学に入学

してきました。年齢や生まれ育った環境、今まで経験してきたこと等がそれぞれ異なり、個々に特有の色を持つています。そのため、今までは知らなかったものの見方、考え方をクラスのメンバーから学ぶことができます。そして、「学びたい」という思いが、一人ひとりとても強く決して努力を惜しまないクラスです。お互いの良いところを認め価値観を尊重しあい、また自分の頑張りをしっかり見ていてくれる仲間や先生方と過ごせるのはとても幸せなことだと感じています。個々で学べることを色々な人に感謝し、一人ひとりが思い描く保健師に向けて、一歩ずつ確実に歩いていきたいと思っています。



二條久美
入学から早くも一ヶ月が過ぎました。私は、

五年間病院で看護師をしていたので、学生生活自体が遠い記憶でした。現役学生について

ていけるのか……そんな不安な気持ちでいっぱいだったのに、既にクラスに馴染んでいる自分がいます。時間割いっぱい詰めた授業と山のように積み重なる課題で大変だと言いつつも走り回って、それでもなぜか楽しくて。同じ目標を持って集まったという仲間意識でしょうか。不思議なくらい自分を伸ばせる環境だと実感しています。本専攻科は仲間の結束が強く、これが豊かな人間性を育ててくれるのだと確信しています。



阿部恵太
本専攻科に入学して早一ヶ月が経ちました。

私は東京都で看護師として働いていましたが、保健師を目指すために実家のある岡山県に戻ってきました。五年ぶりの学生生活と九十分の授業、都会では味わえないほどの緑に囲まれた生活等、最初は「やっていけるのかなー」と不安に思うことも多々ありましたが、時間の経過とともに新見での生活にも慣れてきました。クラスの人数が十六名と少なく、しかも男性が私一人なので、先生方や同級生に迷惑をかけながら、支えられながら学生生活を送っています。来年三月には笑顔で修了できるように、皆で頑張っていこうと思います。

看護学科

新任教員挨拶「はじめまして」



教授

内藤 一郎

昨年度まで非常勤講師として解剖学を担当して

てきました。覚えて下さっている方も少なくないと思いますが、今年春から専任教員として教育に関わることになりました。三月まで岡山大学で医学科・保健学科、大学院と様々な学生の教育と研究指導を担当してきました。それ以前は重井医学研究所で腎臓と細胞外マトリックスの研究や遺伝性腎臓病の研究と診断にとりくみました。現在看護学科では、四年制大学化を目指して全員協力して進んでいます。学生皆さんの教育はもちろんですが、短大の発展、とりわけ四大化に向けて皆様の役に立ちたいと考えています。さて、私は新見に移り住んで二カ月近く経ちます。人通りやネオンの少ないことは最初さみしい思いをしました。最近、緑と満天の星を楽しむことができるようになりました。初夏のホタル、秋の紅葉、それに雪景色を楽しむに、新見暮らしを満喫したいと思っています。



講師

澤田 由美

四月より母校に着任いたします

した。領域は精神看護学です。学生時代（一期生です！）は、先生方に随分とご心労をおかけしていただきました。そんな私が二十五年以上も看護の仕事に携わっていただけるのは、基礎教育を新短で受けたことが大きく影響しています。先生方の言葉、刺激を受けた課題図書、早朝から通った実習でのエピソードは、今でも心にしっかりと刻まれています。学生時代、先生方にとっても丁寧にかかわっていただいた体験は、私の教育観に大きく影響しています。研究室から眺める町並みに当時の面影を感じつつ、日々進化を遂げる短大に教員として通える幸せをかみしめております。気力・体力・知力不足を痛感しておりますが、恩師の先生方や先輩方に刺激される環境に感謝しつつ、一歩前へ、踏み出していきたく思います。どうぞよろしく願います。



助教

山縣 由子

四月に新見公立短期大学に着任致しました助教

教の山縣と申します。領域は成人看護学です。私は、今まで保健師として臨床で糖尿病の患者教育に携わってきました。糖尿病患者教育に携わる中で、糖尿病患者教育と行動変容の関係について研究したいと思うようになり岡山県立大学保健福祉学研究所看護学専攻の修士課程へ入学し

ました。当初の一年間は仕事と両立しながらの勉学でしたので大変でしたが、後半の一年間は研究のみに専念することができ、久々の学生という立場に新鮮さを感じると同時に、勉学と研究の苦勞と喜びを感じることができました。臨床で得た経験を学生の皆様にお伝えする事ができればと思っています。どうぞよろしく願っています。

看護師国家試験「全員合格！」

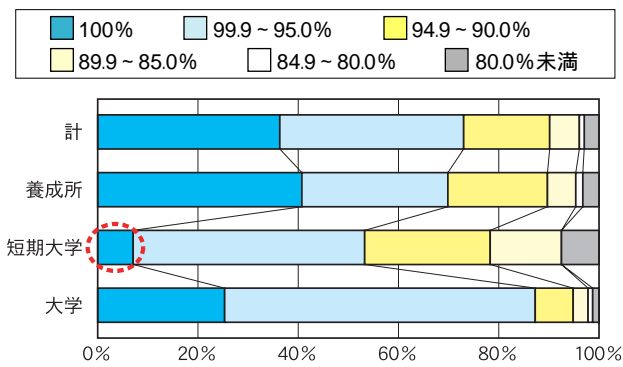
二十六期生担任 木下 香織

第九十七回看護師国家試験が平成二十年二月二十四日に実施されました。看護師国家試験の合格基準は、二年前の第九十五回が二百六十九点中百七十六点（六十五・一％）、前年度の第九十六回が二百六十九点中百九十四点（七十二・一％）と連続で高くなっており、クラス全体が引き締まった雰囲気です。三年次をスタートしました。

三年次生の課題は、臨地実習のほかに看護研究、就職や進学の準備もあります。近年の国家試験では臨床での判断を問う問題も増えていますので、実習期間中は「経験を知識として身につけよう」と助言しました。実習、看護研究発表会、到達度試験を終えると、いよいよ国家試験対策が学生生活の中心です。一月は国家試験対策委員の学生の計画のもと、週二回教室に集まって学習しました。この集団学習でクラスの団結

力はさらに高まりました。一人ひとりの模擬試験結果をグラフにしてみると、着実に実力がついていたり、や弱点も見えてきます。試験が迫った二月には、過去問題などのプリントを準備し、学生個々のペースで取り組みました。図書館の移転で学習環境にハンディがありました。が、「やればできる」をモットーに前向きに頑張り、最後の全国模試では県内一位、全国でもトップレベルになりました。

第九十七回国家試験の合格率は全体で九十・三％、三年課程短期大学二十八校のうち全員合格を果たしたのはわずか二校でした。クラスの和で励ましあい、努力の成果を実らすことができました。おめでとう！



第97回 看護師国家試験合格率

地域福祉学科

太鼓田植えにボランティア参加して

二年次生 真鍋季子

私は五月三日に、担任の先生のお誘いもあり哲西荘にボランティアに行きました。ちよつと変わった田植えを見ることができるといふこともあり、とてもわくわくしながら施設へ行きました。ボランティアの内容は施設の利用者さんが田植え祭りを見ることができるよう、私たちがその場所まで一緒に行く、というものでした。

田植えが行われる場所に到着し、利用者さんとお話をしていると、私たちの前を、赤・黄の色が入った着物と花がさをつけた女の人が通りました。「きれいいじゃねえ、昔はよおあんな格好して田植えしよおったんだよ。」と利用者さんが懐かしそうに、また嬉しそうに話されました。嬉しそうに利用者さんを見て、このボランティアに参加できてよかったなと思えました。また、私は昔の田植えの様子を見たことがなかったので、田植えに牛が参加したり、着物を着て歌を歌いながら田植えをすることについても、とても驚きましたし、勉強になりました。

今回、このボランティアをしてみて、利用者さんの嬉しそうなお顔が自分にとって嬉しいことでもあると改めて実感しました。また、もともと利用者さんの生きてこられた時

代のことなどを知りたいとも思いました。

「認知症と明るく生きる」

講演会のお礼

講師 松本百合美

五月二十四日に、本学体育館で若年性アルツハイマー型認知症の当事者である太田正博氏と主治医の菅弘之氏による講演会を行いました。五五二名ものご参加をいただき、本当に有難うございました。また、卒業生の皆様も遠方から来てくださり、懐かしい顔が見え嬉しく思いました。太田氏のご趣味は園芸だそうです。「マイウエイ」のすばらしい歌声は、学生たちの胸に一粒の種となり、介護福祉士として、いつか優しい花を咲かせる日が来ることと思います。ご参加いただいた皆様にも、認知症に対する理解と優しい花の種が植えられたとすれば幸いに存じます。ご支援いただきました皆様に、学生・教員一同心よりお礼申し上げます。

新任の先生紹介

講師

三上ゆみ



四月より、地域福祉学科で介護技術、介護実習等を担当させていただきます。

以前、こちらの地域福祉学科で非常勤助手をさせていただいた後、老人介護施設で看護師として働いておりましたがこの度、再び教育

に携われることを非常に嬉しく思っています。介護の現場では、利用者一人ひとりにその方の生きてこられたドラマがあります。障害を持った方の生活を支えるプロとなられる皆さんには、多くの人との出会いを通して「感動」・「経験」をつんでいくお手伝いをしたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

母校自慢 第8回

*鳥取県立岩美高等学校

地域交流の盛んな学校

一年次生 安藤 成美

私は岩美高校の普通科健康福祉コースに在籍していました。このコースでは、福祉について学ぶのはもちろん「健康」についても学びます。高校生活で特に思い出に残っているものは、キャンプ実習で、火をおこすことも経験し、ガスの無かった時代の炊事を体験しました。このことから、今の生活はとても便利なのばかりだと肌で感じる事ができました。また、木で巣箱を製作したり、木のプレートに名前を入れ設置するなどして、私たちの活動が地域貢献につながればと思いい取り組んでいました。

今思えば、岩美高校では地元のマラソン大会や音楽祭への参加など地域行事にはたくさん参加していました。このように地域活動が盛んで自然に囲まれた岩美高校が私の自慢です。

残念なことに、私の在籍していた健康福祉コースは名前を変え「福祉コース」となり、さらに一クラス減ったこともあり、寂しい気持ちもあります。しかし、高校3年間は、私にとってかけがえのない大切な思い出です。

*佐賀県立伊万里高等学校

笹尾台の風

一年次生 橘 可奈子

私の通っていた伊万里高校は、文武両道を目指しており、また多岐にわたり生徒の自主性を培っている学校でした。そのようなことから、強制されたわけでもないのに、ほとんどの生徒が部活動に所属し、仲間との絆の尊さを学びました。私は、ソフトボール部に所属し、マネージャーをしていました。大好きなソフトボールを通して、仲間を支え、応援する喜びを感じました。

進路に関しても、資料の充実はもちろん、先生方が親身になって相談に乗ってくださり、私もそうですが、仲間たちは皆、様々な進路に向かって視野を拡げることができたのです。緑豊かな笹尾台の風に吹かれ、伊万里高校ならではの充実した学生生活を送りました。



絵・奥野仁美

幼児教育学科

「にこももフェスタ」と「にこももフェスタインしんごう」を終えて

一年次生 木村 早希

幼児教育学科では、昨年度の二月にまなび広場にいみにて「にこももフェスタ」を、今年度の四月には、神郷総合センターにて「こどもフェスタインしんごう」を行いました。

練習当時一年生だった私たちは、昨年の十月から「総合表現」という授業の中で劇の制作活動に取り組みました。

私は音響を担当し、劇中で使われる音楽や効果音を作りました。曲のイメージがなかなかつかめず、先生方に何度も指導や助言をいただいで作り直すなど、限られた日数の中で作品を作り上げていく作業は、直前まで様々な苦労がありました。しかし、本番が近づくにつれて、先輩や先生方からの温かい言葉や支えに励まされ、クラス一丸となって、こどもフェスタを成功させたいという一心で練習を重ね、当日を迎えることができました。

こどもフェスタの二つの舞台を振り返ってみると、出演者、舞台美術担当者、まなび広場にいみや神郷総合センターのスタッフの皆さん、先輩方、先生方など、本当に多くの人に支えられ、刺激を受け、成長させ

てもらえた行事だったと感じています。今回得たものを、これからの学習と生活に生かし、保育者としての成長につなげていきたいと思っています。



幼児教育学科に入学して

一年次生 小森 弘子

地元の京都を離れ、初めての一人暮らしですが、少しずつ新見での生活にも慣れてきました。入学した頃は、不安や緊張が大きい毎日でしたが、学生交流会、学祭、部活動などで、同じ学科はもちろん、違う学科の方や先輩方とも親しくなることができました。

四月二十日には、「こどもフェスタインしんごう」の移動公演を見させていただきました。舞台の上の先輩方はとても元気で明るく、笑顔で歌

や手遊びをされており、見ている子どもたちも私たち一年生も、本当に楽しむことができました。「鶴の恩返し」の劇では、布を織る音や、影絵を使うところや、鶴が機を織るところで舞台にきれいな大きな布が出てくるところなどがとても印象的で、準備や練習に時間をかけ、「いいものになりたい」という先輩方の思いが伝わるようでした。先輩方がそれぞれの役を一生懸命されていて、とても感動しました。私もこれからの二年間、先輩たちのように頑張りたいと思います。



絵・吉岡 瞳

新任教員挨拶「はじめまして」

講師



野原ひでの
はじめまして。四月から幼児教育学科の教員として着任いたしました。幼児教育学科では「社会福祉」や「児童福祉」などの社会福祉分野の講義と「施設実習」を担当しております。

新見公立短期大学の教員となった喜びは、私にとって、とても大きな

ものです。と申しますのは、私は平成十三年度の一年間、非常勤実習助手として本学の保育実習指導の助手を勤めさせていただいた経緯があります。その一年間は、諸先生方の保育者養成に対する熱意、学生の日々の学習や生活を細やかにみつめる職員の方々の支援、そして保育者という専門職になるために学びたいという意欲をもった学生たちの姿を、私に強く印象付けるものでした。そして、そのときの印象は、教員として本学の一員となった今も変わらないどころか、益々強く感じられるように思います。大学全体が一丸となって学生の学びを支え、引き伸ばす、よき「文化」が新見公立短期大学にはあります。この「文化」に恥じることのないよう、努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。



絵・嶋田真理

同窓会の コーナー

● 哲西町診療所

看護学科十九期生 西川 雅恵

現在私は、哲西町診療所に勤務しています。

哲西町では八年前より地域包括ケアに力を入れています。その一端を担う診療所も、行政や福祉や教育のスタッフと連携をとることの必要性を実感しています。外来や往診など日々の業務に追われながらも、地域の方や患者様とより近い距離で接すること、信頼関係や人とのつながりの温かさを身にしみて感じ、病棟勤務の時とはまた違ったやりがいを見出しています。

また、短大の地域看護の実習機関にもなっており、本年度も三十二名の実習生が来る予定になっています。スタッフの皆も、実習生の質問や感想に、新たな発見や様々な刺激をうけ、励みとしています。



絵・佐藤ちなつ

● 「がんばっています」 にいみ子育てカレッジ専任保育士 幼児教育学科二十七期生 森田 薫



私は今、今年四月にオープンした新見市学術交流センターのにいみ子育てカレッジ「ひろば」(交流広場)の保育士として働いています。多くの不安を抱えつつ、周りの先生方に支えていただきながら日々忙しく働いています。

「ひろば」が開かれるのは、週二回ですが、二ヶ月経った今では、子どもの登録数も百五十人を超えました。

保育所や幼稚園とは違った環境での親子の姿や、保護者の方と楽しく遊ぶでいる子どもの笑顔は、大変印象的です。また、帰るときには、「楽しかったね。また来ようね。」と言って下さり、その言葉に励まされながら日々頑張っています。

これからも多くの方々に安心して利用していただけるように、そして「また来たい」と思っていただけのように、より充実した「ひろば」づくりを心がけていきたいと思っています。

同窓生の皆様も、子どもたちの笑顔に会いに、是非足をお運びください。



絵・山本裕美

地域福祉学科六期生

清水 美公



研修期間を終え、独り立ちする頃、利用者さんの何を観察したらよいか

からなかった私に「家族と一緒やねん。熱が出たら、ご飯食べられるかな、お粥のほうがいいかな、アイスクリームなら? ... : そうして心配しているんなこと考えるやろ? それと同じ気持ちなんやで」と言ってくれた先輩がいます。専門職でありながら、そのような気持ちにさせられる職業。そして、お年寄りとお過ごし時間はとても貴重で尊いものでした。

この言葉に「介護」が詰まっているような気がします。そして、すべての経験の第一歩になる「介護実習」。より新鮮に、率直に利用者さんと向き合うことのできる「介護実習」が皆さんにとってもかけがえのないものになると確信しています。

● 同窓会兵庫支部会設立

新見公立短期大学の同窓会「兵庫支部会」が、六月十四日に姫路駅前「ホテル日航姫路」セリーナにて、同窓生十五名と教員五名の出席で設立されました。

兵庫支部長に尾西ゆみ子氏(看四期)、幹事に川崎廣美氏(看四期)、また副支部長に吉川聖子氏(看十五期)、西嶋恵子氏(幼二期)らが決まりました。



絵・田口 和

在籍者数

2008.5.1現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	地域看護学専攻科	計
1年次生	64	53	49	16	182
2年次生	64	51	48		163
3年次生	65				65
計	193	104	97	16	410

出身都道府県別在籍学生数

2008.5.1現在

府県	学科 学年	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		地域看護学専攻科	合計
		1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年	学専攻科	
北海道			1							1
茨城県						1				1
埼玉県									1	1
千葉県			1	1				1		2
神奈川県				1						1
富山県			2			2				4
福井県			1							1
長野県		1								1
静岡県						1				1
愛知県		1		1						2
滋賀県								1		1
京都府		1		2	1		1	1	2	8
大阪府		1	1						2	4
兵庫県		21	16	27	9	5	5	9	2	94
和歌山県		1	2							3
鳥取県		4	4	1		2	3	4	1	19
島根県		6	7	7	9	12	9	11		61
岡山県		9	10	4	10	7	18	8	4	70
広島県		5	3	3	1		3	4	1	20
山口県		1	2	2	4	2	1	4		16
徳島県			1		1	1	1			4
香川県		1		2	1		1			5
愛媛県		2	3	5	9	6	4	1	1	31
高知県		2		1	2	1	1		1	8
福岡県		1	3			1		2		7
佐賀県			1			2	1	1		5
長崎県			2	4	2	1	1	1		11
熊本県		1	1		1	1				3
大宮		2	1	1	2	2				8
宮崎		2		1	1	2				6
鹿児島		1		1	1	1				4
沖縄		1	2	1		1			1	6
合計		64	64	65	53	51	49	48	16	410

〈新採用〉

看護学科教授
看護学科講師

内藤 一郎
澤田 由美

理事
理事兼事務局長

深井 正
野林 正紀

総務課主任
総務課課長補佐
法人化推進室長
事務局長
看護学科助教
地域福祉学科講師
看護学科講師
看護教育学科教授

林 康二
竹本 和民
村上 直
定岡 正幸
岡本 重紀
藤井 宏明
真壁 幸子
白神 知子
高月 教恵

看護学科教授
看護学科准教授
看護学科講師
看護学科助教

掛屋 純子
岡 宏美

〈昇格・異動〉
看護学科教授
幼児教育学科准教授
幼児教育学科准教授

上山 和子
斎藤 健司
岡本 直行

総務課主任

大嶋 信一

総務課課長兼四大化準備室長

福田 孝幸

〈転入〉
看護学科助教

山縣 由子

幼児教育学科講師
地域福祉学科講師
看護学科助教

野原ひでの
三上 ゆみ
山縣 由子

叙勲のお知らせ

前学長新居志郎先生は、長年にわたる教育研究に対して、瑞宝中綬章の榮譽（四月二十九日）を受けられました。徳島県鳴門市生まれ、大阪大学医学部出身、同大学微生物病研究所助教、岡山大学医学部教授、同医学部長等を歴任され、平成十年四月一日から本学学長を四年間勤められました。ヘルペスウイルス研究などに多くの研究業績があります。本学では、男女共学の実施やボランティア活動などへの教員・学生参加を推進されました。六月四日に「みよしや」で祝賀会が催されました。



四月から「公立大学法人新見公立短期大学」となりました。そして、学術交流センターも始動し、にいみ子どもカレッジ事業も併設開始され、毎週子どもたちのかわい声が学内に聞こえてきます。「新生にいみ」という、新たな一歩を歩みだした気持ちです。また、この時期は新任教員を迎えて、新しい風が吹いています。

さらに、学生たちの主体的な取り組みとして、『認知症と明るく生きる』という講演会を開催し、五〇名の市民の方の参加を得ることができました。学生も教職員も皆一様に頑張っております。どうぞ、新生にいみの大学を訪れてみてください。そして、皆様のご意見やご感想をお聞かせいただきたく思います。（金山時恵）

編集委員

委員長
委員

原 田 信之
金 山 時 恵
野 原 ひでの
松 永 美輝
村 田 二 郎